

募集要項概要

2025年度 スケジュール(予定)

募集人数	15名程度
受講期間	2025年4月～2026年3月(1年間)
対面講義場所	主として高知大学医学部(高知県南国市岡豊町小蓮) ※対面授業+同期型オンライン授業のハイブリッドか 同期型オンライン授業を基本とします。
応募資格	医師、歯科医師、看護師、その他の医療従事者、 事務職員、医療関連企業等の中で病院経営に関与 している者(部署責任者、またはそれに準ずる者等)、 今後関与する予定の者で、次の各号のいずれかに 該当する者。 1) 大学を卒業したもの 2) 学校教育法第104条第4項の規定により独立行政法人大学改革 支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者 3) 専修学校の専門課程を修了した者
応募方法	選考料9,800円を振込のうえ、次の応募書類を添えて 郵送もしくは持参にてお申し込みください。 ※申請書類は、四国病院経営プログラムホームページから ダウンロードできます。
募集期間	2024年12月2日(月)～2025年1月20日(月)【 必着 】
選考方法	応募書類による選考を行います。
結果通知	2025年2月中旬頃に結果通知書を送付します。
受講費用	186,000円～ 内 選考料9,800円/登録料28,200円/受講料148,000円(5科目)～ 訳 選択する科目数により変動します
履修証明書・ 修了証授与	本プログラム修了者には履修証明書及び 修了証を授与します。(学位は取得できません)

1 学期	4月	・オリエンテーション ・選択科目受講届提出	●	選択科目 授業実施
	5月			マネジメント入門 (土日開校を基本に調整中)
	6月	● 必修 病院経営学講義(6月21日(土)) 病院経営学演習(6月22日(日)) [対面]		マネジメント入門 (土日開校を基本に調整中)
	7月			
	8月	● 必修 病院経営学講義 (8月30日(土)) [対面]		
2 学期	9月	● 必修 病院経営学演習 (8月31日(日)) [対面]		
	10月	● 必修 病院経営学実習 (自施設での実践実習)	●	選択科目 授業実施
	11月			
	12月	● 必修 病院経営学講義・演習 (12月13日(土)・14日(日))		
	1月			
	2月	● 必修 病院経営学実習発表会 ・修了式(実習発表会と同日)		
	3月			

- メリット1**
高知大学大学院修士課程の科目を履修することになりますので、希望により科目等履修生
としても登録し、合格すれば単位認定します。
(修士課程に入学した際に修了要件単位として利用可能)
- メリット2**
本プログラムは、専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座であり、一定の条件
をクリアすると受講関係費用の約50%が給付金として国から給付されます。

詳しい情報や募集要項はホームページを検索!

四国病院経営プログラム

🔍

〈資料請求先・問い合わせ先〉
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部・病院事務部学生課大学院係 四国病院経営プログラム担当
TEL:088-880-2290 / FAX:088-880-2264 Email: hmp4@kochi-u.ac.jp
<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/koudo/>



地域医療を支える
四国病院経営プログラム
SHIKOKU HOSPITAL MANAGEMENT PROGRAM

文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」認定
専門実践教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座

2025年度
受講生募集

病院に携わる方へ

いち

一から学ぶ 病院経営

マネジメントスキルUP

四国病院経営プログラムでは1年間で 病院のトップマネジメントと OODA (Observe, Orient, Decide, Action) を実践できる 現場責任者を養成します

高知大学医学部は、文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラム事業に選定され、香川大学・高知工科大学・高知県立大学と連携し、平成30年度から令和3年度まで病院経営学のプログラムを開設してきました。このプログラムは、病院長、副病院長などの経営責任者のみならず、医師、看護師、薬剤師、その他の医療従事者、事務担当者など多職種に対応し、病院経営に特化した人材育成を行うものであり、令和4年度以降もこれまで培ってきたノウハウを活かして質の高い人材養成をするため継続してプログラムを実施しております。

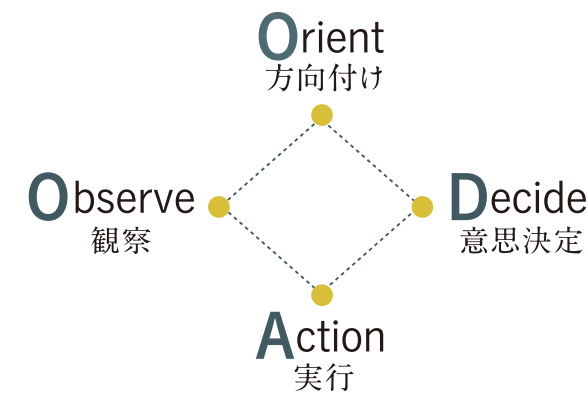
- 2020年3月、本プログラムは、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成29年度選定分）中間評価でS評価をいただきました。
- 2023年2月、本プログラムは文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成29年度選定分）事後評価でS評価（10件中唯一）をいただきました。

対象者：病院長、副病院長などの経営責任者、医師、看護師、薬剤師、
その他の医療従事者、事務担当者など

OODA

OODA（ウーダ）とは、「Observe（観察）」
「Orient（方向付け）」「Decide（意思決定）」
「Action（実行）」の思考サイクルを活用し
「実践力」を鍛えるプログラム構成です。

受け身型の学びではなく、カリキュラム内に、よりリアルに近い実践の場を設けるなど、実際に現場で役立つマネジメントの「技術」と「実践力」を身に付け、病院のトップマネジメントとともにOODA（ウーダ）を実践できる現場責任者を養成します。



プログラムの特徴

1. 理論と実践の実学から病院経営を学ぶ
2. ケースディスカッションで意思決定模擬実践
3. 病院経営現場での実践実習
4. 病院経営に携わる受講者との出会い

これまでの修了生は**84**名、現在**18**名が受講中です！
(2018年度～2023年度) (2024年度)

事業推進プロジェクトリーダー
専門分野：泌尿器科学

本教育プログラムの特徴は、「実践力」の追求です。講師陣は第一線で活躍中の経営者やコンサルタントを多く配置し、ケースディスカッションや受講者自施設におけるプロジェクト実践・発表など、よりリアルに近い模擬・実践の場を設けています。皆様のご参加をお待ちしております。

高知大学医学部長・
高知大学大学院総合人間自然科学研究科
医科学専攻長

井上
啓史

Keiji Inoue

主な授業科目：病院経営学演習（ケースメソッド）
専門分野：病院経営、ヘルスケアビジネス戦略

経営現場で重要なのは関係者の「納得解」です。本プログラムでのケース（経営事例）ディスカッションでは様々な職種が参加し多様な視点を得ながら「納得解」を探していきます。ぜひ熱い議論を楽しんで下さい。

ハイズ株式会社代表取締役、
高知大学客員教授、
慶應義塾大学特任教授

斐
英洙

Hai Eishu

主な授業科目：病院経営学実習
専門分野：産業医学、環境医学、衛生学

四国病院経営プログラムは、地域医療を支えている病院のトップマネジャーと現場責任者を同時に育てようとする挑戦的な取り組みです。最高の講師陣とともに病院経営の真髄を極めましょう。四国以外からのご参加も歓迎します。

高知大学医学部教授

菅沼
成文

Narufumi Suganuma

●プログラム構成

経営学で用いられる考え
講義とケースメソッドを
現場の課題を解決する能

▼必修科目

病院経営学講義

〈土日集中講義〉

集中セミナー形式

対面講義日あり※ただし、すべてオンライン対応

経営5つの基礎スキル「組織」「会計」「財務」「マーケティング」「戦略」を中心に集中セミナー形式で実施します。

病院経営学演習

〈土日集中講義〉

ケースディスカッション形式

対面講義日あり※ただし、すべてオンライン対応

経営事例（ケース）を用いてケースディスカッション形式で学びます。

※修了生との交流会あり

病院経営学実習

実践実習

自施設（病院現場等）での実践実習（10～12月）を行います。 ※発表会あり

その他、講演会等あり

方を
通して学び、
力（実践力）を養います

▼選択科目

本プログラムで定める公衆衛生学コース科目及び看護学専攻科目の中から選択履修

- ・マネジメント入門 〈土日集中講義〉 オンライン講義予定
- ・医療政策・医療経済学 オンライン講義予定
- ・医療管理 オンライン講義予定
- ・メディカルデータマイニング オンライン講義予定
- ・疫学研究のための統計学 オンライン講義予定
- ・産業保健学Ⅰ オンライン講義予定
- ・看護管理学
- ・看護管理学演習

●修了要件

1年間で、本プログラムで定める科目から、

**必修科目3科目、
選択科目**（8科目から）**2科目以上履修し、**
合格すること。本プログラムの修了者には修了証を授与します。あわせて、高知大学から学校教育法第105条の規定に基づき履修証明書（Certificate）を交付します。

●講師陣

**第一線で活躍している経営者や大学講師、
コンサルタント**を配置しています。

●開講時間など

授業は、土日の集中講義や自施設での実習などを除き、**基本的に夜間（18:00以降）開講**です。
※曜日等は履修希望科目により異なります。

物部
真一郎

Shinichiro Monobe

主な授業科目：病院経営学講義
専門分野：Entrepreneurship /
Venture finance / Digital Health

経営には絶対の正解はありません。当プログラムで、課題に直面した際に活用する、思考を整理するためのフレームを身に付け、直感で行う経営から、考える経営に変化させましょう。

高知大学医学部特任准教授

主な授業科目：病院経営学講義
専門分野：財務諸表監査

本プログラムは、経営の基礎理論の会得と、ケースにおける応用が可能となるよう設計されています。これらを通じ、皆さんが抱える経営課題の解決に向けて共に考えていきましょう。

高知工科大学経済・マネジメント学群教授

上村
浩

Hiroshi Uemura

主な授業科目：看護管理学・看護管理学演習
専門分野：看護管理学

マネジメントの秘訣は多彩な講師陣と参加者たちとの出会いから戦略を導き出すことです。多くの仲間との議論により新しい価値を生み出します。マネジメントの神髄に触れながらともに創造力を高めていきましょう。

高知大学医学部准教授

中野
葉子

Yoko Nakano

動機▶管理職経験が浅い私にとってこのプログラムの存在を知った時は「求めている研修!!」と非常に嬉しく思いました。業務の効率化、コスト削減、環境づくり等の課題と向き合いつつ、正確な情報を得て分析するスキルがないため具体的な施策を導き出すことが困難でした。

そのためプログラムの内容を見て是非学びたいという思いから受講に至りました。

受講途中の感想▶座学の内容は、早速職場で活用させて頂いています。またディスカッションでは多職種の方からのご意見をこれまで気づけなかった考え方に刺激を受けました。今後は、数十年前とは違い医療業界でも戦略を立てなければ生き残れない時代ということも含め、改めて身の引き締まる思いです。

抱負▶学んだことを実践し、業務改善、経営分析を進め目標とする職場の理念に基けるよう取り組んでいきたいと思っています。



医療法人千博会
南国厚生病院
山本 裕理子
やまもと ゆりこ

事務長

動機▶養成校を卒業後理学療法士として現場でプレイヤーとして努めてまいりました。2年前にクリニックの副所長となり、院長を支えながらクリニックの運営を考える立場になりましたが、経営の知識もなくリーダーシップをとって課題を解決する技量も乏しく悩んでいたところに所属する法人からの勧めもあり、課題解決能力・実行力・思考力を身に付けたいと思い受講をすることにしました。

受講途中の感想▶講義は毎回新鮮で多量の知識の吸収と理解が必要でついていくことがやっとなのですが、演習では具体的な例を通して実践形式で学ぶことができ、知識の定着、実行が図れていると実感できます。また他の受講生とのグループワークでは新しい発見や気づきを得られとても刺激になります。

抱負▶マネジメントは技術であり、後から獲得できるものと学びました。日々の業務の中で学んだフレームワークでの分析や意思決定のトレーニングを重ねていくことでマネジメント力を身に付けていきたいと思っています。このプログラムで学んだことをクリニックでの運営や問題解決に向けて実践していきたいです。



医療法人防治会
梅ノ辻クリニック
河村 真紀
かわむら まき

副所長

2024年度
受講生に訊く、

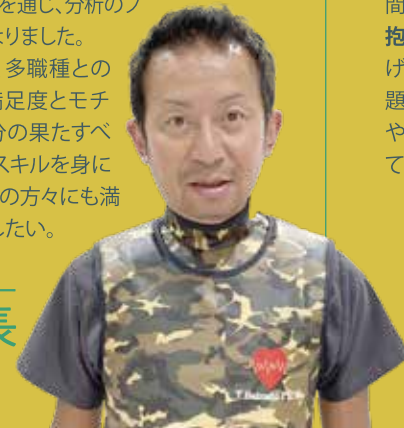
動機と抱負

受講の

動機▶本プログラムには毎年当院職員が参加してきましたが、昨年度は院長が受講しました。時折、本プログラムの意義、重要性、内容などの話を聞かされ、来年は受講するようにと強く勧められておりました。正直なところあまり前向きではありませんでしたが、プログラム内容を目にした際に、組織構築におけるコミュニケーション、リーダーシップに関するレクチャーがある事を知りました。ハートセンター長、内科医局長として、いかに病院経営に貢献するのか、大きな命題解決の礎を求め、参加を決意しました。

受講途中の感想▶経営に関して完全なる門外漢で、使われる言葉の多くが初見聞であり、当初は戸惑う事もありました。ケーススタディでの予習やディスカッション、その後の解説を通じ、分析のフレームワーク等々が理解できるようになりました。

抱負▶働き方改革が叫ばれる昨今、多職種との協働が不可欠です。全ての職員の満足度とモチベーションを高く維持するため、自分の果たすべき役割を見出し、それを遂行できるスキルを身につけたい。それにより患者さん、地域の方々にも満足していただける病院づくりに貢献したい。



社会医療法人仁生会
細木病院
山本 哲史
やまもと さとし

ほそぎハートセンター長
循環器内科部長
内科医局長

動機▶医療を取り巻く環境が大きく変化しており、病院職員の多数を占める看護職の意識や行動が病院経営を左右するといっても過言ではない状況にあると感じています。診療報酬の改定のたびにトップダウンで行動変容を求める際には、相当の納得のいく説明が必要です。また、その際に中途半端な知識で戦略も不十分な状態で実行しても成功は難しいと考えていました。そこで、病院経営について本格的に学ぶ必要を感じ、今回の受講を決めました。

受講途中の感想▶さまざまな職種や立場の方の思いや意見を聞くことができ、その背景にある所属機関の状況も垣間見ることできるため、毎回興味深く受講しています。

抱負▶まずは、本研修の病院実習で取り組む課題を成し遂げたいと思います。その後もさまざまな問題や課題に直面した際には、この研修で習得した知識やマネジメントスキルをぜひ活用したいと考えています。



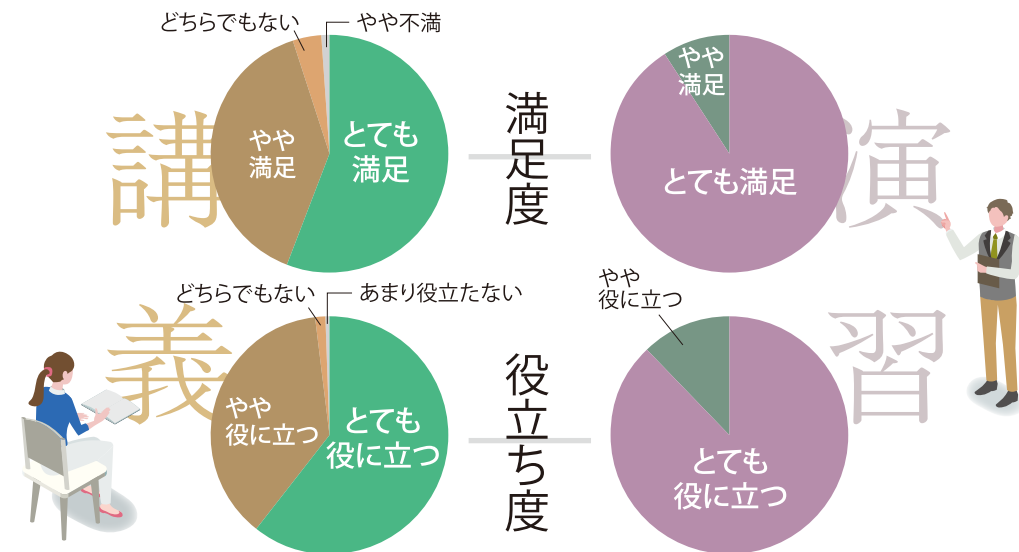
高知県立
あき総合病院
中屋 美智
なかや みち

看護部
看護部長

2023年度

週末セミナーについてのアンケート結果より

2018年度～2023年度 週末セミナーの延べ人数で集計
●参加者数[講義272][演習264] ●アンケート回収数[講義259][演習252] ●回収率[講義95%][演習95%]



学び・気づき

日常にお互いの意見を受け入れながら話ができる仕組みが「基本」となることが大切だと思いました。FACT整理、FACT分析も日常的に行っていくと思います。選好性を高めることが解決の糸口になると感じたので、自分の内面も変化させていこうと思いました。

今まで、フレームワークのことなど意識せずしてなかったが、「見える化」「見せる化」のお話やSWOT分析など学んだことを活かし、まずは業務の問題点の見える化を行っていくと思った。自分の業務に関する勉強以外に、**ビジネススキルを底上げするような勉強も大切だ**と改めて思った。

小さなことに目も向け事実確認していくこと・相手に伝わるように(納得してもらるように)意見と理由を述べていくことの重要性を感じました。

講義

経営について**知らなかったことや疑問に感じていたことが整理され、どのように対応することが必要なのか少し理解出来た**ような気がします。日常的に課題と感じていることは、やはり経営上でも留意すべき点であり、解決が必要なのだと感じさせられました。

経営戦略の各論から具体的な人を育てる重要性がわかりやすかった。今私が困っていることや課題と考えていることに沿った内容で**実践に役立てそう**だと感じた。

今まで、経営・組織管理について学問として学んだことが無かったため、論理的な知識として**今後の業務に活かせる**と思いました。

普段感じていることと一致することも多く、学びと考える整理になりました。経営戦略の手法や理念の大切さを知ることができました。

よかった点

ケースという形は、話す立場としても聞く立場としても非常に学びやすかった。

リアルなケースを読み解きながら、ファクト・イシュー・ソリューションを行うことで**具体的に见えてくるその場の状況が楽しかった**です。

事例を通じて、グループワークで他の参加者の方と話をすることができ、**考えの幅が広がりました**。職種は違えども、同じテーマで同じ志で学ぼうとする集団だからこそ、同じことを様々な角度でディスカッションすることができ、とても楽しかったです。

講師が全部受けとめるという体制なので安心して発言できました。そして最後まで同じ熱量で笑顔のところが見習わないといけないなとも思いました。講義の内容も、人物像を知ること、深掘りすること、なぜ?という感性など、**基本的な思考過程が勉強になりました**。

現場に即した内容だったため、大変役立つ内容でした。

演習

「受講生・修了生交流会」

受講生・修了生交流会とは
必修科目「病院経営学講義」の中で、「受講生・修了生交流会」を行っています。このプログラムで学んだことをどのように自院で活かされているのか発表を聞いたり、質問をする機会を設けています。

感想

修了生の話聞き、自分が同じようにできるか不安にもなったが、プログラムが終わっても引き続き学んだことを活かしている姿をみて自分もそうなりたいと思えた。

実習計画書のヒントになった。ほぼ方向性が決定していたが、修了生の発表を聞いて、自分の本当にやりたいことを実習計画書にしようかと思う。

修了生の方の話が、10月開始の実習計画を立てる参考になりました。

自分たちのできる形で病院経営に関わるための知識とスキルを身に着けることができました。

1 きっかけ 独学に限界を感じ、壁を超えるために

5年前に課長職に就いたのですが、リハビリでは言語聴覚士は最も人員が少ない職種です。当初はスタッフもやりにくかったと思うし、私自身も力不足を痛感していました。そこでマネジメントや看護管理などを独学で勉強し、部内に関してはある程度コントロールできるようになったのです。

一方、部外の医師や看護師といった他職種との連携では、リハ職以外とも折衝する機会が増えました。さらに、病棟やリハビリの収益を問われる立場に就いたこともあり、一層のスキルが必要になりましたが、独学では限界を感じていたのです。そんな折、プログラムを受けた経験がある以前の上司から、受講を勧められました。自分の今の壁を超えるためにはチャレンジしてもいいかなと思い、受講を決めました。

2 これまでの経験にとらわれず新たな視座や視野で課題と向き合う力を得る

健康保険の成り立ちなどを学び、そもそも医療とは何か、日本の現状と立ち位置などを考えるようになりました。病院勤務の中では、どうしても自分が知りえる範囲での探求になってしまいます。プログラムを受講することで、高い視座や広い視野を得られたと思います。プログラムにはさまざまな職種の方が参加していて、グループワークなどで視点が違う意見などに触れることができ、また皆さんの講義に向けた熱量の多さを感じたことも刺激になりました。

経営というとハードルが高く、一般の管理職は関係ないと思うかもしれませんが、しかし、自分たちにもできることはたくさんあると気づきました。それぞれの立ち位置はありますが、自分たちの範囲内でできることを考えるきっかけになるプログラムです。

4 今後 病院が持つ強みを広く院内外に発信するための広報活動を目指す

当院は高知県内で唯一、パーキンソン病治療のためのDBS(脳深部刺激療法)を行っている施設であり、パーキンソン病のリハビリコース入院なども積極的に行うなど大きな強みを持っていることを実習を通じて再認識しました。しかしながら、地域の皆さんや院内のスタッフもそのことが十分に知られていないのが現状です。患者様の信頼やスタッフのやる気につながる情報だけにもったいないと思います。内外に積極的に発信できるような広報展開に取り組みたいと考えています。

医療法人 防治会
いずみの病院
若林 豪 リハビリテーション部
わかばやし つよし 課長

多職種でのディスカッションから、現場では得られない視野を見つけることができました。

1 解決策の選択肢を増やし、きっかけ もっと成長するため

何年か前から部門長についています。管理職としての教育を受けたことはありません。自己学習をしたり、ほかの管理職の方に相談したりしてきましたが、問題が起きたときの解決策の選択肢があまり思い浮かばず、場当たりの解決方法ではよくないと常々感じてはいました。やはり基礎をしっかりと学んでおかないと、自分が成長できなくなるという危機感がありました。

そんな折、病院経営プログラムの2日間コースを受けたところ、想像以上にすごくいい学びの場だったため、ぜひ1年間のコースをチャレンジしたいと思い立ちました。

高知大学医学部附属病院

細田 里南 医療技術部
ほそだ りな リハビリテーション部門
部門長兼医療技術部長

2 否定されないことから生まれる学び 安心感が議論の場には必要不可欠

受講して特によかったと思うのは、職種も所属する組織も違う3、4名のグループで、ひとつの課題に対して解決策を話し合うグループディスカッションに参加できたことです。私は医療職なので、課題に対してどうしても医療的なスキルで考えてしまいがちでしたが、例えば事務系の方は全く違うアプローチをします。あるいは同じ職種でも、勤めている環境や立場によっても視点が違う。いろいろな視点での意見を聞くことは、現場ではなかなか得られない貴重な経験でした。また、講師の先生方が私たちの意見を否定しないので、どんなことを発言しても受け入れられる安心感がありました。職場でのミーティングなどを意味のあるものにするために必要な条件だと、すごく勉強になりました。

実習では所属する医療技術部の存在意義について、経営者、医療技術部職員それぞれの立場から分析し、自院の課題解決に取り組みました。医療技術部は設立から日が浅く、求められる役割を明確にする必要があると感じていたからです。アンケート調査などを行い、今後の方針を立てることができたのも、受講の収穫だと思います。

3 現在 プログラムの学びを現場で活かす その繰り返しで本物の力をつける

講義や演習を通して、課題を解決するためのOODAなどのフレームワークを学びました。フレームワークという問題解決のための武器をもらったと思っています。しかし、実際に現場で課題が生じたとき、必ずしも活かしていけない場合があります。それまでの経験則で、つい対応してしまうのです。フレームワークを使っていないことに気づいたときは、振り返ってもう一度、自分の中で組み立てて、使った場合の解はどうなっていたのか考え、修正可能であればその時点で変更するようにしています。また、部下から相談を受けたときは、必ずフレームワークを使って指導を返すことを意識しています。

講義の中で、マネジメントはトレーニングが必要だと教わりました。一回、聞いただけでできるものではなく、意識して使っていけないと自分のものにはならないのだとわかりました。

4 働き方改革の達成に向けて医療技術部ができることを今後 探る

医療技術部は、病院の運営に関わるうえで大事な職種を束ねている部門です。現状をしっかりと見据えて、課題を抽出したうえで、病院に利する人材配置を行わなければいけません。医師の働き方改革がすでに始まっている中、私たち医療技術部職員がどのようにサポートするのがベストなのか、その仕組みづくりに取り組んでいきたいと思っています。



マネジメントに必要なのは才能ではなく、 トレーニング。この言葉が私に自信を 与えてくれました。

1 きっかけ マネジメントの共通言語で 医師や上司と考えを共有したい

理学療法士としては20年以上のキャリアがあります。当院に就職した2020年以来、リハビリテーション課の課長補佐、課長とステップアップする中で、管理職として組織を効率的に運営していくための学びが必要だと感じるようになりました。そこで当法人の医師に相談したところ、病院経営やマネジメントの知識が得られるとプログラムを勧められたのです。医師と上司の考えや指示をマネジメントの共通言語で受け取って共有したい、組織運営の取り組みに早く関われるようにになりたいと思い、受講を決めました。

2 経営やマネジメントで 価値があるのは正解よりも、 学び 周りの意見を生かした納得解

北海道北見市から参加のため、講義はすべてオンラインで受講しました。当初は不安もありましたが、支障なく講義を受けることができました。現在は受講当時と役職が変わり、リハビリテーション課、放射線課、栄養課、臨床検査課をまとめる医療技術部の長として事業計画の作成とその運営を行っています。今回のプログラムで学ぶことができたのは、とてもいいタイミングでした。

講義の中で特に印象に残ったのが、問題解決に絶対の正解はなく、経営やマネジメントで大切なのは納得解だということ。私自身、正解を求めるがゆえに慎重になり過ぎたり、あるいは自分の考えにとらわれたりしていた部分があったと思います。それが納得解であれば、うまくいかなければ仮説を立てて、そこに周りの意見を受けて修正を加えながら納得できる解を探っていけばいい。絶対に正解を見つけなければというプレッシャーが和らぎ、解を考えることが苦にならなくなりました。

また、マネジメントには才能が必要で、私には欠けていると思っていたのですが、トレーニングでアップしていくものだと教わりました。いまも、とても心強い言葉として残っています。



社会医療法人 明生会
道東の森総合病院

立花 亜希 医療技術部長
たちばな あき 理学療法士 SAITO MEDICAL GROUP
財務会計本部・本部長補佐

3 現在 フレームワークが 事業計画立案の思考に役立つ

講義を受けてから、課題解決に向けた提案を考えるとき、まずフローチャートなどを用いて課題を分析することを心掛けるようになりました。これは講師の方がフレームワークを駆使される様子を見て、ぜひ実践したいと思ったことのひとつです。医療技術部長として事業計画を立てる際などにも、大いに役に立っています。

プログラムでは、当院リハビリテーション課の人員の安定化と効率化を実習のテーマにしました。実習を通して、目標の達成を評価するために監査組織の必要性が高いとわかりました。そこでリハビリテーション課内に業務執行室を立ち上げ、教育・学術班、運営・連携班、データ・診療報酬班に分けて各担当者を配置し、事業計画を立案。担当や監査の役職者とともに週1回会議を行い、計画がどこまで進行しているのかを確認しています。

4 今後 全国のグループ法人との交流に プログラムの学びを生かす

当法人は北見市と網走市を拠点にしていますが、SAITO MEDICAL GROUPは全国各地にグループ法人を展開しています。これからはグループ全体で人材や技術の交流を進めてグループ内で情報を共有するため、プログラムで学んで取り組んできたことを役立てていきたいと思っています。



OODA を実践することで、 組織改編に取り組む際の羅針盤になりました。

1 受講の背中を押した きっかけ 受講経験者からのアドバイス

8年ほど前に一度このプログラムに申し込んだのですが、その時は受けることができませんでした。以来、精神科の事務方としてキャリアを積んできたので、今回の受講にはためらう気持ちがありました。ただ、すでにプログラムを受けた人からは、「病院経営を考えるうえで、絶対に必要なスキルを学ぶことができるよ」と強く勧められ応募しました。

3 自分の強みと弱みを 見つめたことが 現在 現場での働き方を変えた

自院の問題解決をテーマにした実習では、OODAを用いて事務部門の組織見直しを行い、現在も継続して取り組んでいます。それまで人事部と総務部が分かれており、効率が悪いということで人事総務部に組織改編したのですが、うまく回らず混乱していました。何とか立て直さなければということで、実習のテーマにしました。

OODAの「観察」「方向づけ」「意思決定」「実行」を実践したことで、直面している課題や問題をどのように解決すればいいかが見えてきました。ひとつひとつ、目標にたどり着きながら、状況を整理していくことができるようになりました。実習でテーマとして取り上げてよかったと思っています。ただ、組織は容易に動くものではないので、プログラム修了後の現在も少しずつ変えていこうとしています。

また、プログラムの受講では改めて自分自身を振り返り、前向きに行動できる強みや視野の狭さなどの弱みがあることを考える機会にもなりました。日頃、現場で働きながらも、強みを生かし、弱点を改めるようにしています。

社会医療法人 仁生会
細木病院
中嶋 光宏 事務部
なかしま みつひろ 部長



2 講師の熱い言葉と、受講生の議論は 学び 新鮮で刺激的な学びに

プログラムを申し込んだ直後、一般科の事務部長に異動になりました。実は精神科と一般科では診療報酬なども違うので、精神科以外での勤務経験がない私にとって一般科を中心にしたプログラムは格好の学びの場になりました。

日本の医療におけるこれまでの歴史や事例を用いた演習など、先生方による講義はどれも勉強になりました。受講していた当時の私は一般科の知識が乏しかったので、そんなことがあるんだという驚きばかり。今、プログラムで教わったことを思い返し、日々の業務に役立てています。

特に印象に残っているのは、障害を持ちながらも在宅診療の診療所を立ち上げた医師の方の講義です。すごい熱量で医療に携わっており、診療の現場はもちろん、経営やマネジメントまで自ら動いているという話にとっても刺激を受けました。

プログラムでの学びは、特に医師にとって有益ではないでしょうか。医師が主導して入院決定をしたり、退院決定をしたりします。医師が経営を理解することは病院にとってもメリットが大きいと感じました。

4 80周年の節目を間近に控え 今後 地域に愛される病院へと進化を目指す

2026年、当院は創立80周年を迎えます。これに向けて、建物の老朽化対策としての改修や改築とともに、地域に根差した病院として効率的で質の高い医療が実現できるように機能転換を進めていきたいと考えています。地域から愛される病院を目指すためには経営の果たす役割がとても重要なので、プログラムの学びはこれからも大いに活用したいと思っています。